

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 日本合成化学工業(株)		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 531-0076 大阪市北区小松原町 2 番 4 号	
本票作成	部署名：生産技術本部 水島工場 保安環境部				
主たる業種	分類コード	16	業種名：化学工業		
事業の概要	酢酸ビニル、ポリビニルアルコール、エチレン・酢酸ビニル共重合体の製造を行う。				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	生産技術本部 水島工場		倉敷市松江四丁目8番1号	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 28)年度排出量	目標年度(平成 31 年度)
	147,529 t CO ₂	142,975 t CO ₂	140,056 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 28)年度排出量
	①	生産技術本部 水島工場	142,975 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間： 平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(28)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 2.2 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 工場の製品数量の年度合計値 168,100t/年 (平成28年度)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(28)年度	目標年度
		0.832 t CO ₂ /(t)	0.851 t CO ₂ /(t)	0.790 t CO ₂ /(t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 28 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

製品の品質トラブルに対応するため、エネルギーを過剰に使用せざるを得なかった。また、弊社・熊本工場が熊本地震により一時期、操業を停止したことにより、熊本工場で原料として使用されている水島工場の製品の生産数量が前年度に比べて減少した。そのため、原単位基準の削減目標が達成できなかった。

【推進体制】

省エネ法も踏まえて、工場エネルギー管理者と共に各課(製造/技術/保安環境/品質保証/事務)長を課エネルギー管理者に任命し、省エネルギー(エネルギー起源のCO2排出量の削減)を推進する体制を整えている。
また、省エネ委員会により具体的なエネルギー起源のCO2排出量削減案の計画及び実行している。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
生産技術本部 水島工場	<p>(平成28年度実施分)</p> <p>平成28年度末に冷凍機1機を高効率化機器に更新し現在、CO2削減量確認中。</p> <p>(今後実施予定分)</p> <p>冷凍機の更新(高効率化機器の採用:CO2削減量 420t/年)</p> <p>蒸留塔の運転条件変更(CO2削減量 250t/年)</p> <p>送水ポンプの自動制御変更(CO2削減量 420t/年)</p> <p>送水ポンプ運用改善(CO2削減量 420t/年)</p> <p>場内水銀灯のLED化(CO2削減量 130t/年)</p> <p>冷水塔用インバータ周波数の見直し(CO2削減量 210t/年)</p> <p>空気圧縮機更新に伴う高効率機器導入又は経路及び制御システムの変更による効率化(CO2削減量 410t/年)</p>

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

--